

令和8年度

授業改善グランドデザイン

「学びの変革推進プラン」
施策1の推進に向けて

全国学力・学習状況調査の結果分析と学力向上の方略

1	本県の目指す授業と授業改善グランドデザインの役割	P1
---	--------------------------	----

2	全国学力・学習状況調査の結果の概要	P2
---	-------------------	----

3	質問調査の結果に見るふくしまの強みと課題	P3～4
---	----------------------	------

4	各教科の結果の概要	P5～14
---	-----------	-------

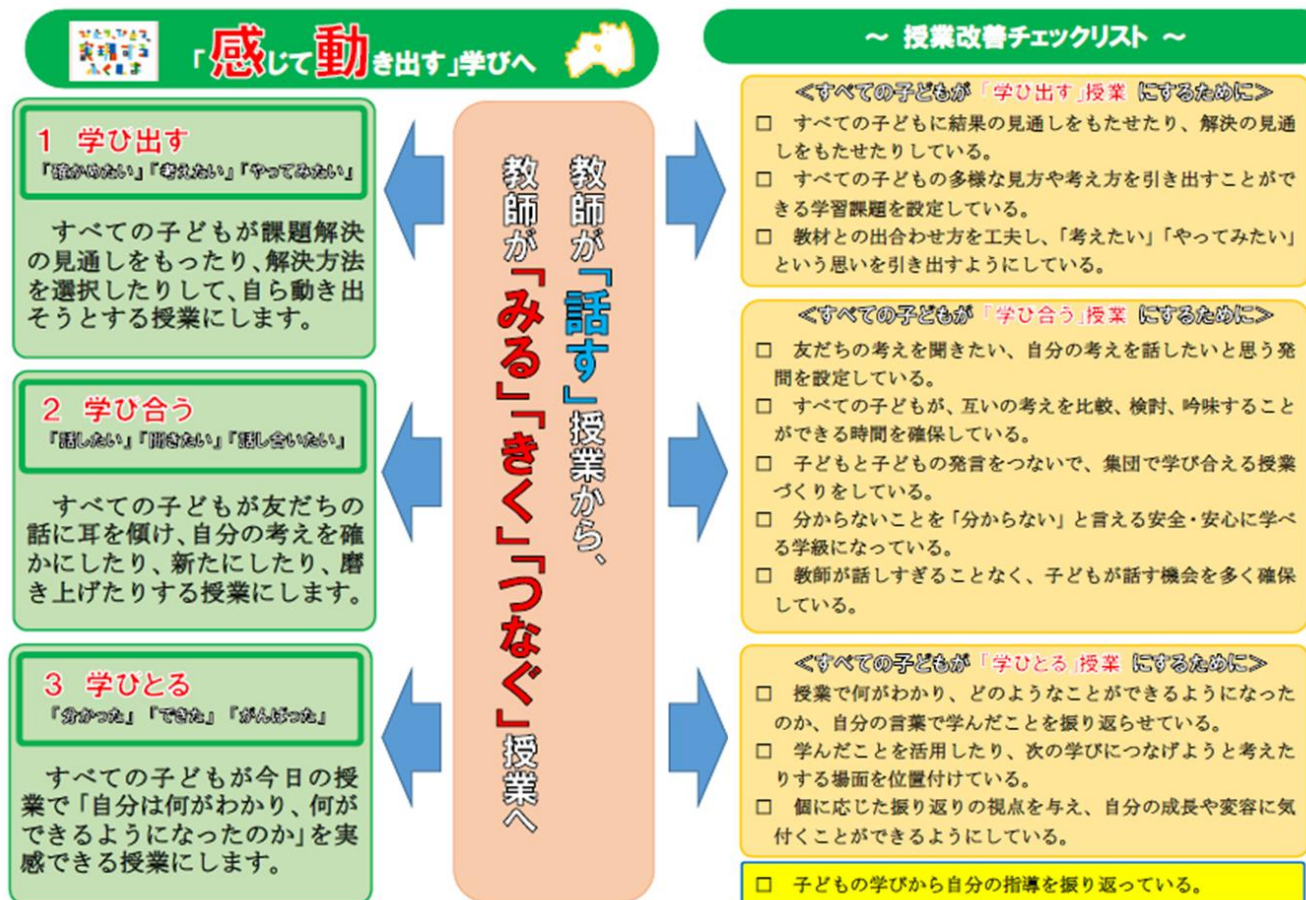
5	授業改善のための情報・ツール集	P15
---	-----------------	-----

令和8年8月

福島県教育庁義務教育課

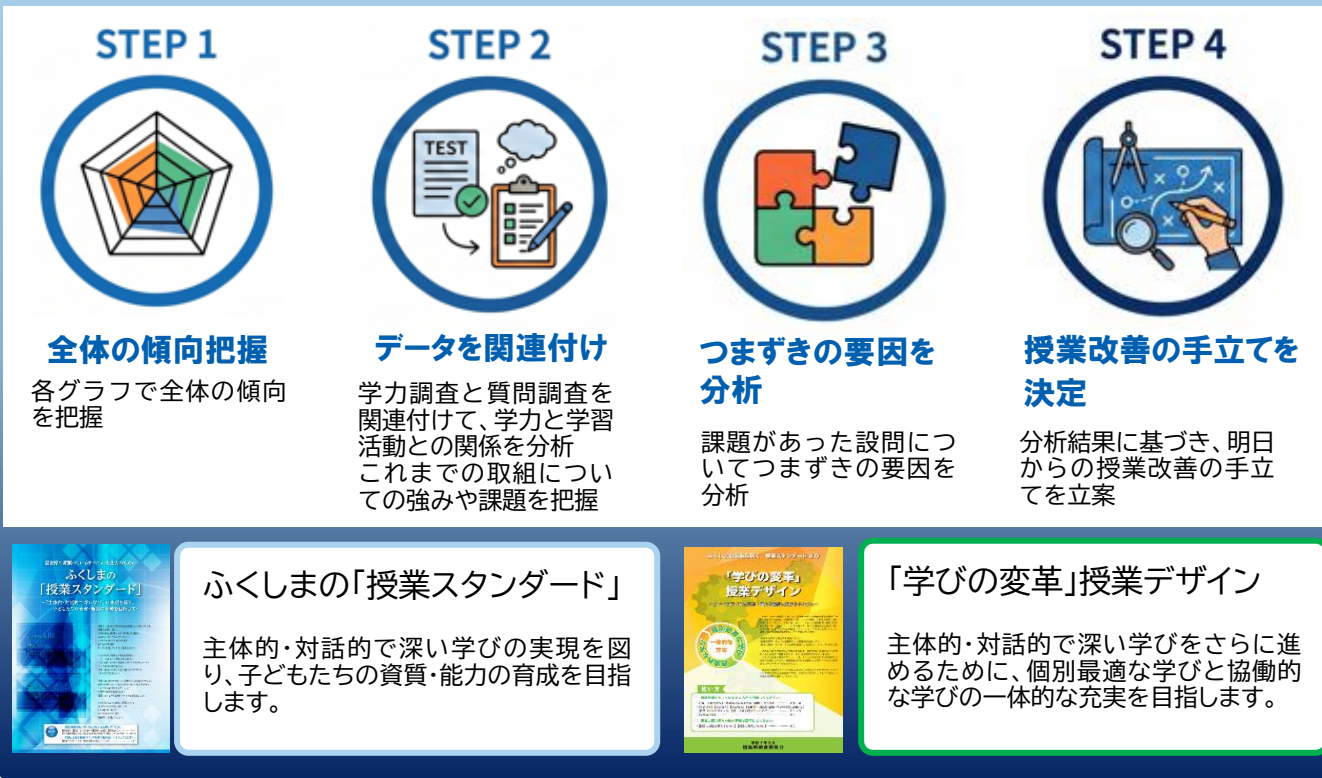
■ 1 本県の目指す授業と授業改善グランドデザインの役割

○ 本県の目指す授業



○ 授業改善グランドデザインの役割

ふくしまの「授業スタンダード」と「学びの変革」授業デザインを基盤とした、データに基づく授業改善へのステップ



2 全国学力・学習状況調査の結果の概要

○ 調査に関する概要

実施日	令和8年4月23日（木） ※中学校英語は令和8年4月20日～4月23日に「聞くこと」「読むこと」「書くこと」、4月24日～5月29日に「話すこと」を実施。	
実施校数	小学校 370校	中学校 204校
調査学年	小学校 6年生	中学校 3年生
調査教科	小学校 国語、算数	中学校 国語、数学、英語

※ 実施校数は、4月23日に調査を実施した数である。

※ 義務教育学校（前期課程・後期課程）及び特別支援学校（小学部、中学部）を含む。

○ 校種・教科に関する調査結果の概要

校 種	教 科	対象児童生徒数	福島県平均正答率 (中学校英語は IRT スコア)	全国平均正答率 (中学校英語は IRT スコア)	福島県平均正答数	全国平均正答数
小学校	国 語	13, 126	59	60.9	7.7/13	7.9/13
	算 数	13, 125	54	56.4	8.7/16	9.0/16
中学校	国 語	12, 129	62	63.9	9.4/15	9.6/15
	数 学	12, 134	53	57.0	8.5/16	9.1/16
	英 語	12, 050	47.2	49.9	3.3/7	3.7/7

※ 児童生徒数は、4月23日に調査を実施した数である。

※ 国の公表方針及び提供資料に基づき、県の数値については整数値による公表である。

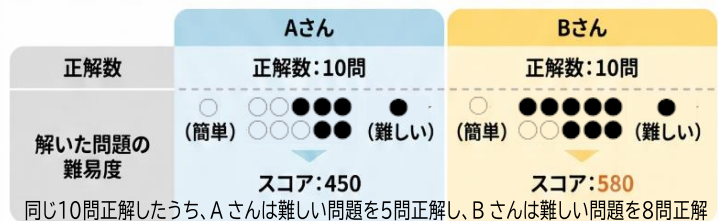
※ 中学校英語のみ IRT スコアによる公表である。（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の3技能スコア）

IRT スコアとは？

視力検査に例えると「何個見えたか」ではなく、「どの小ささまで見えたか」で力を測ります。



難しい問題に正解すればスコアは高く、簡単な問題を間違えるとスコアは低く算出されます。どのレベルの問題を解いたかによって、学力を測定します。



令和9年度に全国学力・学習状況調査は CBT に全面移行します。（一部 PBT を併用）

○ 学力・学習状況の領域名と質問番号の対応一覧

〈教科を中心とした学力・学習状況〉

領域番号	領域名	児童・生徒質問番号
1	国語の学力	
2	算数・数学の学力	
3	英語の学力	
4(3)	国語に関する意識	(52) (53) (55)
5(4)	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)
6(5)	算数・数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)
7(6)	算数・数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)
8(7)	英語に関する意識	小 (69) ～ (71) 中 (69) (70) (72) (73)
9(8)	英語の学習活動	小 (72) (73) 中 (71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)

〈その他の学力・学習状況(学習状況、自己有用感等)〉

領域番号	領域名	児童・生徒質問番号
10(9)	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)
11(10)	生活習慣	(1) ～ (4)
12(11)	学習習慣	(23) (25)
13(12)	読書等	(26) ～ (30)
14(13)	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)
15(14)	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)
16(15)	自己有用感等・心理的安全性	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)
17(16)	向社会性	(11) (12) (14) (33)
18(17)	学びの自己調整	(22) (43)

※ 領域番号の（ ）は小学校

■ 3 質問調査の結果に見るふくしまの強みと課題 児童生徒質問調査から



子どもたちに寄り添った粘り強い指導と協働的な学びの充実を基盤とした学習が展開されていることが本県の強みです。今後も、各教科等において、対話的な学びにつながる発問や課題設定を工夫するとともに、探究的な要素を持つ学習活動を取り入れていくことで「学びの変革」に向けた授業がさらに充実します。

先生が日々、子どもたち一人一人に寄り添い、粘り強く指導していることで、よい関係が築かれています。

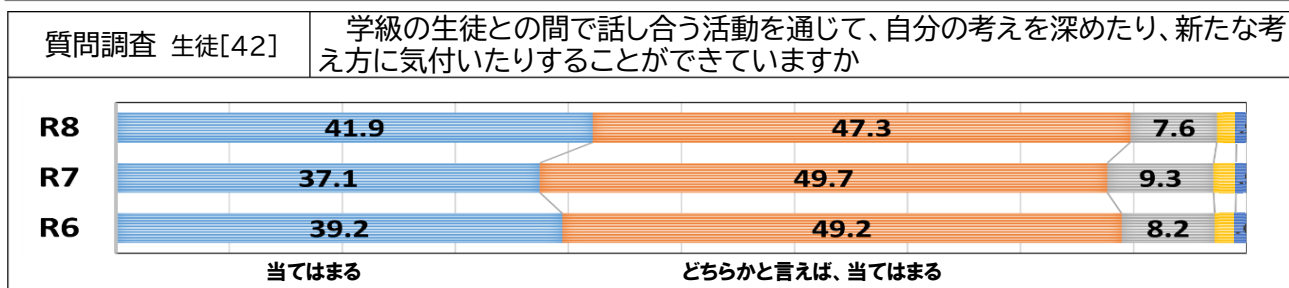
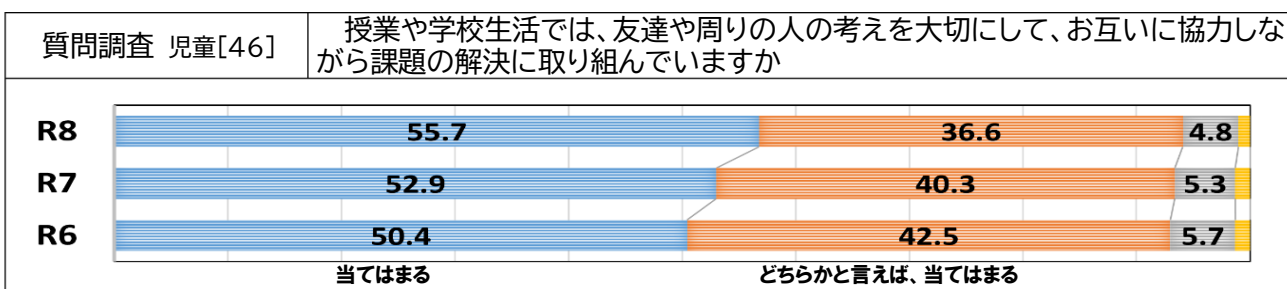
質問調査 児童[9] 生徒[9]	県平均(%) 肯定的な回答の割合 (全国比)	
	児童	生徒
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	91.6(+0.2)	91.6(+0.7)

「当てはまる」の回答のみで全国平均と比較すると、児童は+1.3、生徒は+2.5と、高い値を示しています。

質問調査 児童[45] 生徒[45]	県平均(%) 肯定的な回答の割合 (全国比)	
	児童	生徒
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	89.3(+2.0)	88.2(+3.0)

「当てはまる」の回答のみで全国平均と比較すると、児童は+6.5、生徒は+5.6と、かなり高い値を示しています。

相手を尊重した協働的な課題解決や、対話による考えの深まりが見られるなど、協働的な学びが年々充実してきています。



ICT機器の活用について、子どもたちは情報収集については自信をもっています。今後は、自分の考えを表現したり、表現したことを推敲したりする学習活動にも積極的にICT機器を取り入れていくことが重要です。ICT機器を用いた表現の機会を意図的に設けるとともに、ICT機器を表現の道具として日常的に活用していくことで、自らの表現の質の高まりを実感できるようにすることが大切です。

情報収集のための ICT 活用から、課題解決のための ICT 活用につなげていく必要があります。

質問調査 児童[36-2] 生徒[36-2]	県平均(%) 肯定的な回答の割合 (全国比)	
あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができますか	児童	生徒
	84.2(-0.7)	90.9(±0)
質問調査 児童[36-4] 生徒[36-4]	県平均(%) 肯定的な回答の割合 (全国比)	
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか	児童	生徒
	66.2(-8.4)	76.2(-3.8)

3 質問調査の結果に見るふくしまの強みと課題

学校質問調査から

強み

各学校では「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善が着実に進められています。この取り組みを継続させていくことで、「学びの変革」を推進していくことが重要です。

学校全体で学級の問題への組織的対応や、授業での課題の解決に向けた主体的な学びを推進していることが本県の大きな強みです。

質問調査 小学校[15] 中学校[15]	県平均(%) 肯定的な回答の割合 (全国比)	
教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか	小学校	中学校
	89.7(+0.3)	80.9(+1.9)
質問調査 小学校[26] 中学校[26]	県平均(%) 肯定的な回答の割合 (全国比)	
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	小学校	中学校
	91.1(+3.0)	90.2(+3.0)

「当てはまる」の回答のみで全国平均と比較すると、小学校は+1.4、中学校は+2.1と、高い値を示しています。



習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導の工夫や、身に付けたことを様々な課題の解決に生かす機会の設定など、子どもたちの「深い学び」を確かなものにするために、しっかりと取り組んでいる学校が増えています。

質問調査 小学校[36]	各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか		
R8	19.7	68.1	12.2
R7	18.5	71.5	9.8
R6	16.8	70.9	12.3
	よく行った	どちらかと言えば、行った	
質問調査 中学校[34]	習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか		
R8	19.1	71.1	9.8
R7	16.2	72.4	11.4
R6	16.3	71.8	12.0
	よく行った	どちらかと言えば、行った	

課題

自分で問いを立てて進める学びや『何を解決すべきか』という問いを生み出す学びが十分でないと考えられます。特に、「自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動」の実施については、肯定的な回答が6割ほどです。そのため、問いを引き出す場の設定を工夫していくことが今後ますます重要となります。

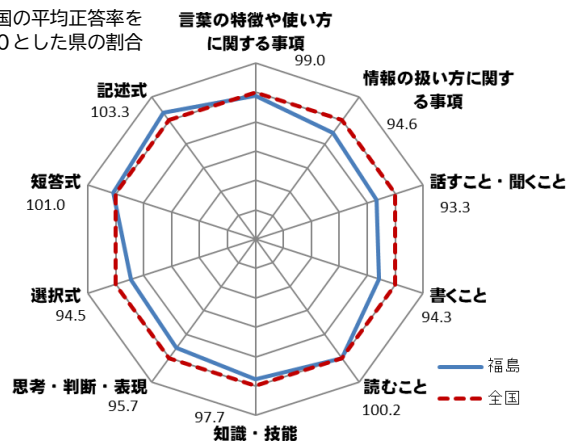
子どもたちが自己調整しながら学びに向かう単元づくりや問いを引き出す場の設定を行っていくことが必要です。

質問調査 小学校[30] 中学校[30]	県平均(%) 肯定的な回答の割合 (全国比)	
授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行ったか	小学校	中学校
	63.2(-1.2)	55.4(-1.3)
質問調査 小学校[33] 中学校[33]	県平均(%) 肯定的な回答の割合 (全国比)	
授業において、児童(生徒)自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	小学校	中学校
	85.4(-4.1)	86.7(+1.3)

4 各教科の結果の概要 — 小学校国語

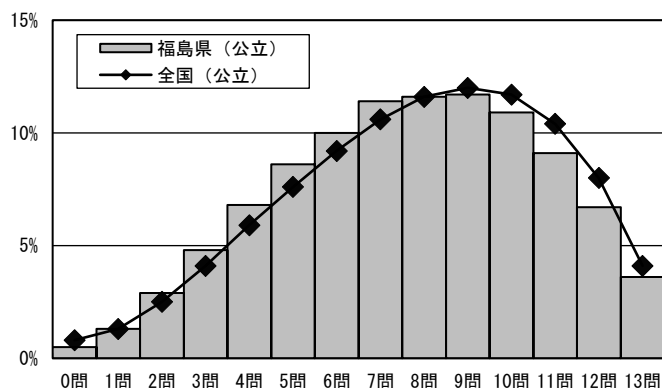
○ 領域・観点・問題形式別の状況

※ 全国の平均正答率を
100とした県の割合



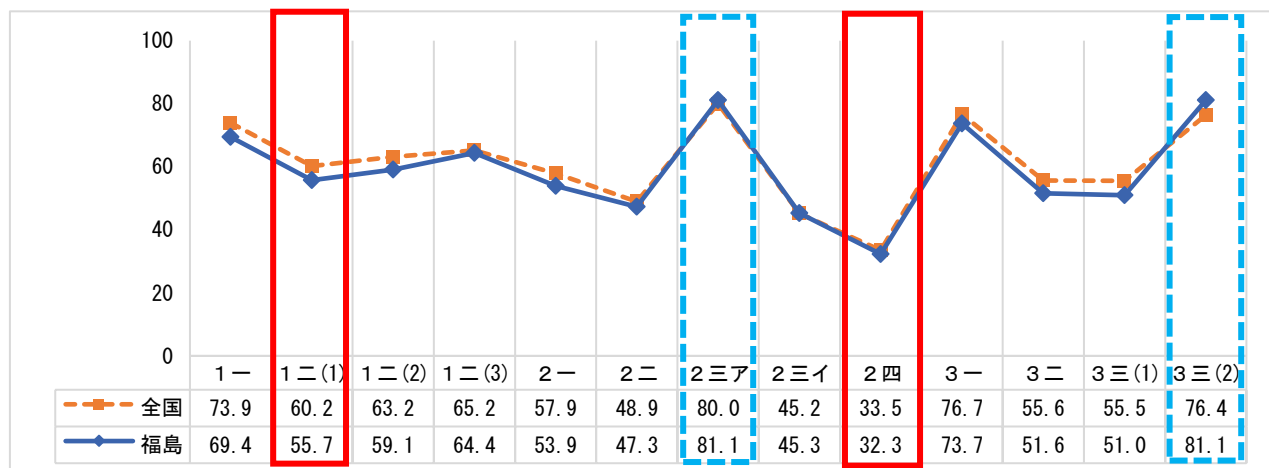
- 「記述式」の問題の平均正答率が全国平均を上回っている。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域、「情報の扱い方に関する事項」が全国平均を下回っている。

○ 正答数の分布



- 中央値(8問)は全国と同じであるが、正答数が9～13問の割合は全国と比較して少なく、正答数が2問～7問の割合は全国と比較して多い。(中央値より低い層の分布が厚い。)

○ 設問ごとの平均正答率 成果が見られた設問(点線枠・○)と課題が見られた設問(実線枠・●)



- 2三ア 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる
- 3三(2) 文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる
- 1二(1) 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる
- 2四 引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる

○教科についての質問調査項目の一部

質問番号	質問内容	児童の回答割合の全国平均との比較		
児童(53)	国語の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合		
		県：63.1%	全国：57.4%	全国比：+5.7
児童(57)	5年生までにうけた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくださいましたか	「よくある」「たまにある」と回答した児童の割合		
		県：79.2%	全国：75.1%	全国比：+4.1
児童(59)	5年生までにうけた授業では、国語の授業で、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめていましたか	「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童の割合		
		県：80.5%	全国：78.3%	全国比：+2.2

○設問「3三(2) 文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる(記述式)」の平均正答率は81.8%で、全国平均を4.7ポイント上回っています。また、関連する「児童質問(59)」の肯定的回答も全国平均を上回っていることから、文章を読んで理解したことを基に、自分の考えをまとめる活動が日常的に行われている成果と考えられます。

○「国語の勉強は好き」と回答した児童の割合は、全国平均を5.7ポイント上回っています。「児童質問(57)」に見られるような教師の授業での関わりが、国語への関心や学習意欲の向上につながっていると考えられます。

●「話すこと・聞くこと」の領域は、令和6年度から全国平均を下回る状況が続いており、改善が必要です。タブレットなどのICT機器も活用しながら表現の仕方を考え、工夫して伝える活動の充実が求められます。

「学びの変革」に向けて ～教科の特質に応じた見方・考え方を働かせて～

〔ここで取り上げる設問〕 2四

出題の趣旨

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる

【正答例】正答率 32.3% (全国 33.4%)

「生活と太陽」という本には、「白は熱や光を反しやすさる色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。」と書かれている。特に強い日差しが照りつけるえん天下では、黒い服より白い服を着る方が、すずしく過ごすことができそうだ。(123字)

条件②

「生活と太陽」という本には、「白は熱や光を反しやすさる色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。」と書かれている。特に強い日差しが照りつけるえん天下では、黒い服より白い服を着る方が、すずしく過ごすことができそうだ。(123字)

条件③

【最も多かった誤答】反応率 30.7% (全国 29.2%)

自分の考えは書いているが、「本の題名」と「本文の一部」を引用していない。(条件③は満たしているが、条件①②を満たしていない)

条件① 集めた情報の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。
条件② き出した本の題名と本文の一部の内容はかぎがつくこと。
条件③ き出した内容をもとに、すずしく過ごす衣服の色について考えたことを書くこと。
百四十文字以内にまとめて書くこと。

【花山さんの文章の続き】

正答のモデルとなる部分

4 すずしく過ごせる衣服の色は何色か

「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そででもすずしく過ごすことができそうだ。

また、

5 終わりに

これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

(参考文けん)

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかくじられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しやすさる色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

条件①

条件①

四 花山さんは、「集めた情報」をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを「花山さんの文章の続き」に書いています。あなたが花山さんなら、
どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

誤答分析

条件のとおり引用し正答した児童の割合は 32.3%であったのに対し、最も多かった誤答は、条件にある引用（「本の題名」と「本文の一部」を抜き出す）をしなかったというものでした（反応率は 30.7%）。どの条件も満たさなかった誤答は、16.2%でした。

最も多かった誤答からは、引用して書く必要があると考えることができずに自分の考えだけを書いた児童、引用した部分を自分の考えの一部として書いた児童が多くいたということが考えられます。

なお、無回答率は 4.5% (全国 5.2%) で全国平均より -0.7 ポイント下回っていました。

授業改善のポイント

① 引用することの目的やよさを実感できるようにする

自分の考えを伝える際には、信頼できる情報を根拠として引用することで説得力を高めることができます。上記の設問では、このような「引用すること」の目的やよさを捉えられているかが問われています。指導に当たっては、引用のある場合と、引用のない場合を読み比べる活動などを通して、引用することの目的やよさを実感できるようにすることが大切です。

② 必要感のある活動を通して引用の仕方を身に付ける

引用の仕方については、〔知識及び技能〕の「情報の整理」の指導事項と関連を図りながら、理解を深めることが重要です。ただし、引用の仕方を、単に知識として理解させるのではなく、自分の考えを表現する活動の中で必要感をもって身に付けられるようにすることが求められます。

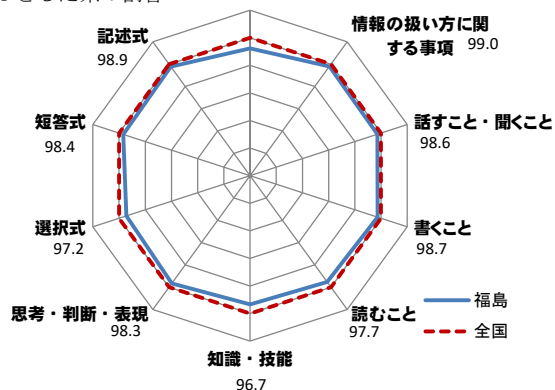
③ 系統性を意識して複数の単元で指導する

引用したり、図表やグラフなどを用いたりする書き表し方の工夫は、一つの単元だけではなく、関連する複数の単元において、系統性を意識しながら繰り返し取り上げ、指導していただくことが大切です。

4 各教科の結果の概要 — 中学校国語

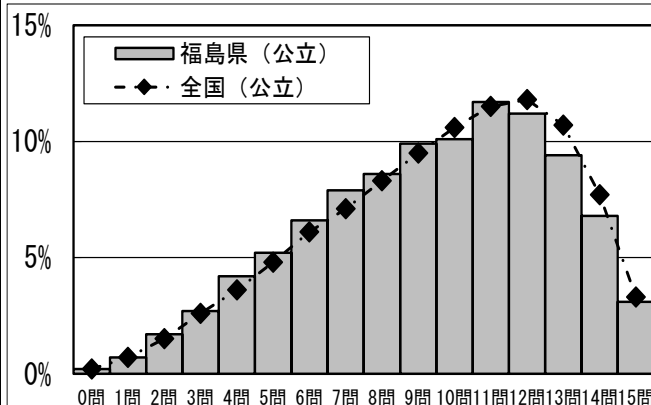
○ 領域・観点・問題形式別の状況

※ 全国の平均正答率を
100とした県の割合



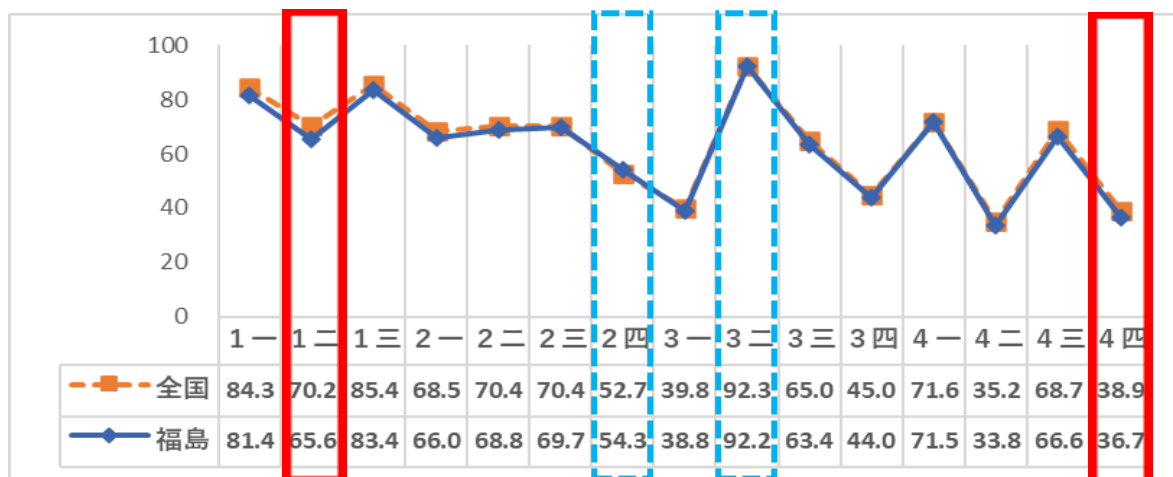
- いずれの領域も全国平均に近い正答率となっている。
- 「知識・技能」の正答率が全国平均より低くなっている。

○ 正答数の分布



- 全体的な分布は全国平均と概ね一致している。
- 正答数が12～15問の割合が全国平均を下回っている。

○ 設問ごとの平均正答率 成果が見られた設問（点線枠・○）と課題が見られた設問（実線枠・●）



- 2四 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる
- 3二 表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる
- 1二 単語の類別について理解しているかどうかをみる
- 4四 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる

○教科についての質問調査項目の一部

質問番号	質問内容	学校・生徒の回答割合の全国平均との比較		
生徒(52)	国語の勉強は得意ですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合		
		県：59.1%	全国：51.6%	全国比：+7.5
生徒(56)	1、2年生の時に受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれましたか	「よくある」「たまにある」と回答した生徒の割合		
		県：78.4%	全国：73.0%	全国比：+5.4
生徒(58)	1、2年生の時に受けた授業では、国語の授業で、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめていましたか	「している」「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合		
		県：87.6%	全国：84.8%	全国比：+2.8

- 「国語の勉強は得意」と回答した生徒の割合は、全国平均を7.5ポイント上回っています。「自分のよい点や進歩の状況を伝えてもらっている」と解答した生徒の割合も全国平均を5.4ポイント上回っていることから、教師の積極的な働きかけによって、国語の学習に関する肯定感が高まっていると考えられます。
- 設問2四の正答率が全国平均よりも高くなっています。「生徒質問(58)」にあるように、話し合ったことを基に、一定の結論に向かって考えをまとめる学習を行ってきた成果の表れだと考えられます。
- 「知識及び技能」の領域に課題があります。「思考力、判断力、表現力等」の指導と関連付けながら、実際の言語活動の中で生きて働く知識・技能を身に付けさせるための指導改善が求められます。

「学びの変革」に向けて ～教科の特質に応じた見方・考え方を働かせて～

〔ここで取り上げる設問〕 4四

出題の趣旨

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる

《正答例》

正答率 県 36.7% (全国 38.9%)

「きっぱり」は、生徒が先生に向かって、自信を持って力強く言い切っている様子を表している。このように、擬態語は話している様子の包括的なイメージを表現することができる。(条件①、②を満たして解答しているもの)

《最も多かった誤答》

反応率 県 35.6% (全国 35.1%)

擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くことはできているが、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くことができていない。(条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの)

条件1 (例文2) の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。
条件2 条件1で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。



《具体的な場面》

四 林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、《具体的な場面》を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、《例文1》と《例文2》を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

《例文1》(擬態語を使っていない例文)

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

《例文2》(擬態語を使った例文)

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

誤答分析

条件①、②を満たして解答した生徒の割合は36.7%でした。一方で、最も多かった誤答は、「条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの」で、そのように解答した生徒の割合は35.6%でした。このことから、擬態語「きっぱり」から想起される具体的な様子は記述することができても、それを踏まえて、表現の効果を論理的に説明することに難しさを感じている生徒が多いと考えられます。

また、無解答率も20.4%と高いことから、「きっぱり」がどのような様子を表す擬態語なのかについて理解できなかった生徒が多いと考えられます。

授業改善のポイント

① 文章を読んで理解したことをアウトプットする

「文章を読んで理解したことを基に、自分の考えを確かなものにす」ためには、文章の構成や展開、表現の効果等について精査・解釈したことについて、根拠を明確にして他者に説明するなど、アウトプットする活動を設定することが大切です。そうすることにより、他者の考えも踏まえながら、自己の考えを再構築することができます。

② 生徒の理解を深めるための適切な言語活動を設定する

上記の設問のように、「読むこと」の指導において「知識及び技能」の内容である擬態語を取り上げる場合、擬態語を使っている文章と使っていない文章を比較させたり、いくつかの擬態語の中から、様子が適切に伝わる言葉を考えさせたりする活動が考えられます。「思考力、判断力、表現力等」の指導と関連付けた言語活動を設定することにより、指導の効果が高まり、生徒の理解が深まります。

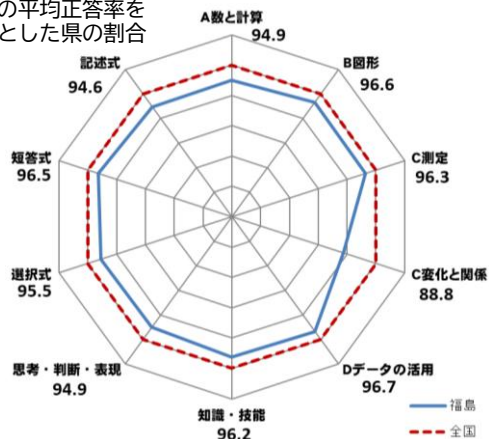
③ 振り返りの視点を明確にする

自己の考えをより確かなものにすためには、具体的な場面を思い浮かべ、改めて生徒自身が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返らせることが重要です。単元で身に付けさせたい力を生徒と共有することで、振り返りの視点を明確にし、生徒が「何ができるようになったか」を実感できるようにすることが大切です。

4 各教科の結果の概要 — 小学校算数

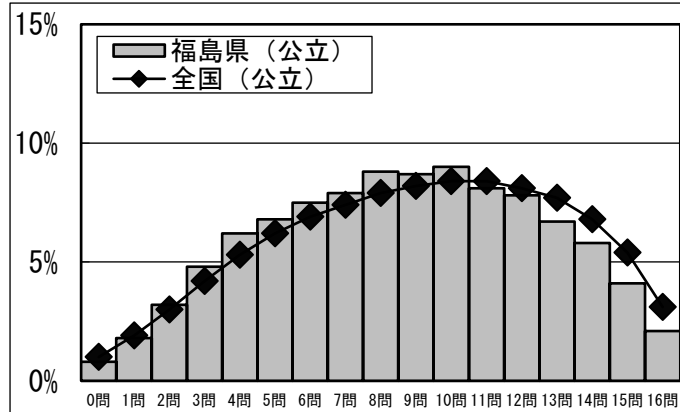
○ 領域・観点・問題形式別の状況

※ 全国平均正答率を100とした県の割合



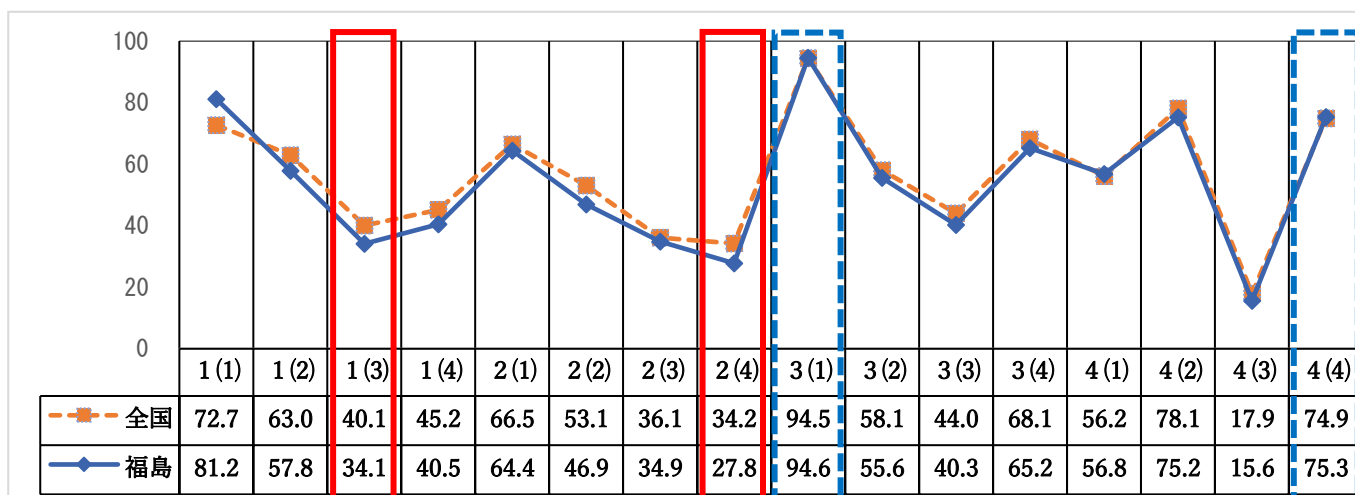
○記述式の問題や「B 図形」の領域などで改善の傾向が見られる。
●「C 変化と関係」の領域では、基準量を求めることや、問題場面から基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることなどに課題がある。

○ 正答数の分布



○正答数が0～2問の割合が全国と比較して少ない。
●中央値は全国、県ともに9問と差はないが、正答数が3～8問の割合が多く、正答数が11問以上の割合が少ない。

○ 設問ごとの平均正答率 成果が見られた設問 (点線枠・○) と課題が見られた設問 (実線枠・●)



○3(1) 小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることを確かめる
○4(4) 帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかを確かめる
●1(3) 体積の意味について理解しているかを確かめる
●2(4) 基準量、比較量、割合の関係を正しく表されている図を選ぶことができるかを確かめる

○教科についての質問調査項目の一部

質問番号	質問内容	児童の回答割合の全国平均との比較		
学校 (50)	具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行いましたか	「よく行った」と回答している学校の割合		
		県 : 34.3%	全国 : 37.9%	全国比 : -3.6
児童 (67)	図形や数直線など図が示された問題では、問題を解くときに図が役に立つと思いましたか	「当てはまる」と回答している児童の割合		
		県 : 57.8%	全国 : 56.0%	全国比 : +1.8

○全体的に全国平均との差が前年度より縮まっており、改善の傾向が見られます。特に、記述式の平均正答率 (R7:30.6%→R8:45.9%) が向上しており、全国との差 (R7:-4.3→R8:-2.6%) も小さくなっています。「事実」「方法」「理由」について、児童自身が説明する活動を充実させていることの成果だと考えられます。
○正答数の分布について、0～3問正答している割合が減り、5～12問正答している割合が増えています。全体的に正答数が増えていることは、教師の積極的な働きかけの成果であると考えられます。
●具体的な物の操作や図との関連付けなどの活動を意図的に取り入れ、体積の意味や量と割合の違いなどについて、実感を持って理解できるようにすることが求められます。
●前年度までの学習内容も含めて、「分かっているつもり」「できているつもり」の児童を見取ることができるよう、適用問題などで学習内容の理解度を評価し、単元づくりやその後の授業に生かすことが求められます。

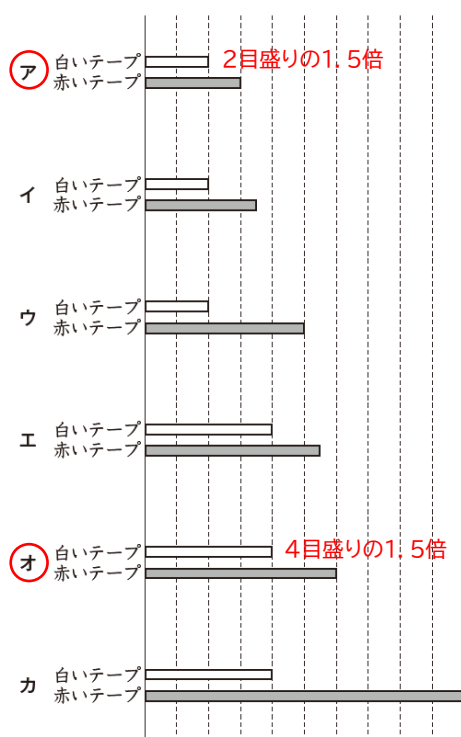
「学びの変革」に向けて ～教科の特質に応じた見方・考え方を働かせて～

〔ここで取り上げる設問〕 2(4)

出題の趣旨 基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる

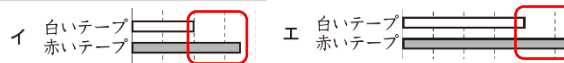
2 (4) 赤いテープの長さが、白いテープの長さの 1.5 倍になっている図はどれですか。

下のアからカまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。



解答類型	反応率(%)	
	福島県	全国
ア、オと解答しているもの(正答)	27.8	34.2
イ、エと解答しているもの	41.1	35.9
ウ、カと解答しているもの	9.6	10.2
ア、エと解答しているもの	3.4	3.5
ア、カと解答しているもの		
イ、オと解答しているもの	4.9	4.4
ウ、オと解答しているもの		
上記以外の解答	12.2	10.3
無回答	0.8	1.5

最も多かった誤答について



誤答分析

解答類型を見ると、「イ、エと解答しているもの」が最多で、「基準量の1.5倍」を「1.5目盛り分多い量」と捉えている児童が多いことが分かります。このことから、量と割合の違いや、基準量、比較量、割合の関係などを正しく捉えることができていないことが考えられます。

また、具体的な数値が示されておらず、図に記載されている目盛りのみで判断しなければならないことも、児童のつまずきにつながっていることが予想されます。

授業改善のポイント

① 言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いた数学的な表現を関連付ける

言葉や式だけでなく数直線やテープ図などの図とも関連付けるなど、より具体的なイメージを育むことで、児童が実感を伴って理解できるようにすることが大切です。

② 数学的な表現力を育成する言語活動を適切に位置付ける

計算や図形の性質、二つの数量の関係などの「事実」の記述、問題を解決するための考え方や解決方法といった「方法」の記述、ある事柄が成り立つ「理由」や判断の「理由」の記述など、どのような表現を目指すのかを、本時のねらいと対応させながら指導過程に適切に位置付けることが大切です。

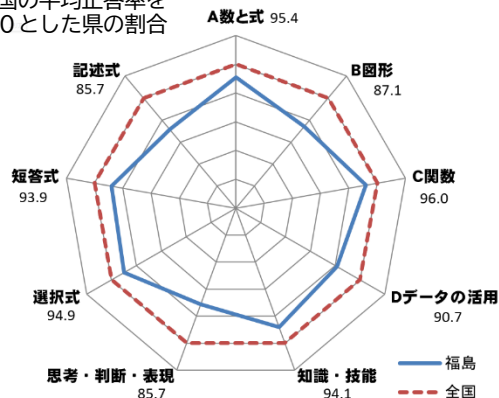
③ 「何ができるようになったのか」について評価する方法を明確にする

知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を評価する方法を設定するとともに、その結果をその後の授業づくりに生かしていくことが大切です。

4 各教科の結果の概要 — 中学校数学

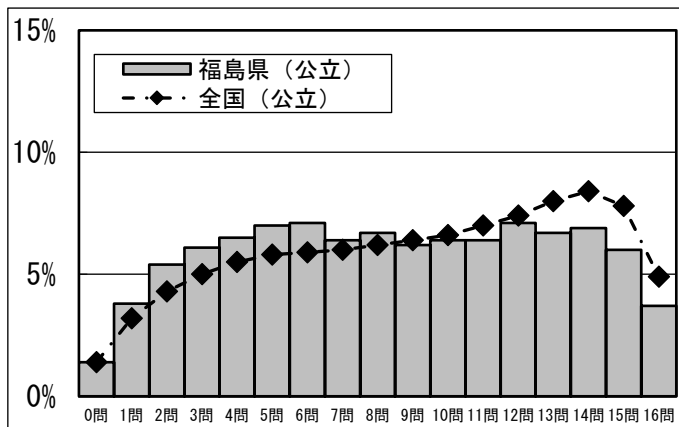
○ 領域・観点・問題形式別の状況

※ 全国の平均正答率を100とした県の割合



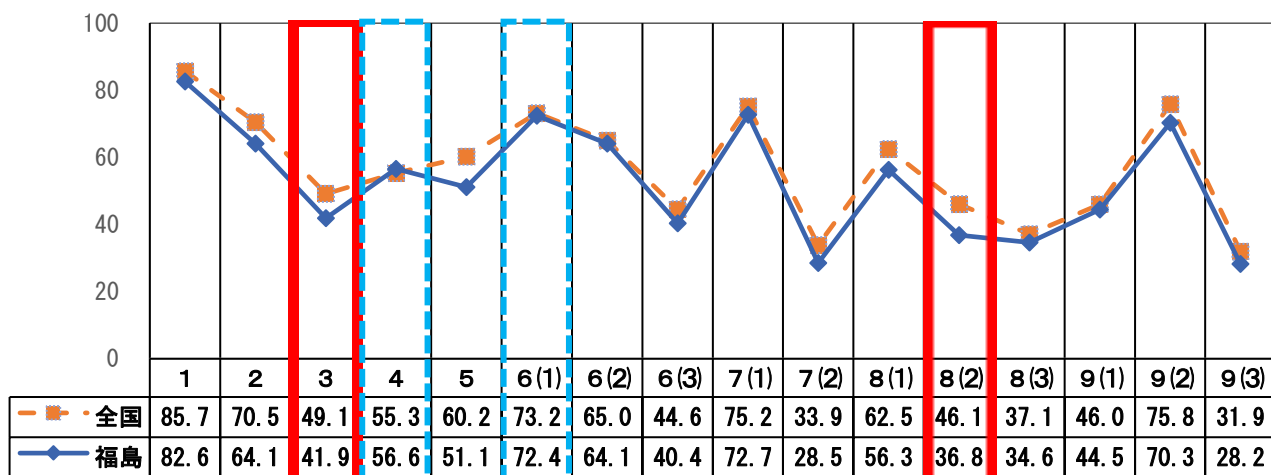
- 「A数と式」「C関数」の領域が全国平均に近い状況である。
- 「B図形」の領域に課題が見られる。

○ 正答数の分布



- 正答数が7～11問の割合が全国平均と同水準である。
- 正答数が12～16問の割合が全国平均を下回っている。

○ 設問ごとの平均正答率 成果が見られた設問（点線枠・○）と課題が見られた設問（実線枠・●）



- 4 反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、 x の値に対応する y の値を求めることができるかどうかをみる
- 6(1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかをみる
- 3 2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる
- 8(2) 筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる

○教科についての質問調査項目の一部

質問番号	質問内容	回答割合の全国平均との比較		
生徒(63)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合		
		県：78.7%	全国：76.5%	全国比：+2.2
生徒(64)	1、2年生のときに受けた授業では、数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていましたか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合		
		県：65.6%	全国：63.0%	全国比：+2.6
学校(50)	調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか	「よく行えた」「どちらかといえば、行えた」と回答した学校の割合		
		県：84.3%	全国：83.7%	全国比：+0.6

○生徒質問(63)(64)で、「数学が将来役に立つ」「生活で活用できている」という意識が全国平均より高いことから、生徒は事象の特徴を捉えて数学的に表現する活動を通して、数学のよさを実感していると考えられます。このことは、教材との出合わせ方等を工夫した指導が展開されていることの成果であると推察されます。

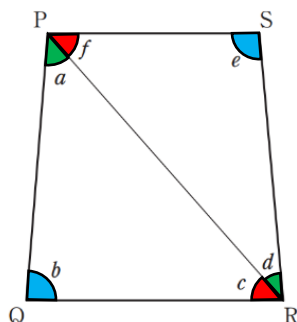
●学校質問(50)で、「観察や操作、実験等の活動」を、積極的に行っている一方で、観点別で全国平均との差を見たとき、「思考・判断・表現」は「知識・技能」より差が大きいです。数学的活動を通して「わかった」「できた」という実感を、根拠を明らかにしながら数学的な表現で「説明できた」「記述できた」という段階まで引き上げる指導の充実が求められます。

〔ここで取り上げる設問〕 3

出題の趣旨

2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる

③ 下の図は、四角形PQRSに対角線PRをひいたものです。



解答類型	割合(%)	
	福島県	全国
∠cと∠fを解答しているもの(赤色:正答)	41.9	49.1
∠aと∠dを解答しているもの(緑色)	3.3	3.1
∠bと∠eを解答しているもの(青色)	28.5	24.4
上記以外の解答	23.5	20.6
無解答	2.9	2.8

上の図において、∠aから∠fまでの6つの角のうち、ある2つの角の大きさが等しければ、 $PS \parallel QR$ であるといえます。その2つの角を書きなさい。

誤答分析

正答率は41.9%で、2直線が平行になるための条件を理解し、2直線が平行であるかどうかを判断する際に着目すべき2つの角を見いだすことに課題があることがわかります。

「∠bと∠eを解答しているもの(青色)」の中には、平行線になるための条件「2直線に1つの直線が交わるとき、錯角が等しければ、その2直線は平行である」と、平行四辺形の性質「平行四辺形では、2組の対角はそれぞれ等しい」という2つのことがらを混同し、四角形PQRSの向かい合う角に着目して、「四角形において1組の向かい合う角が等しいならば、2直線は平行である」と誤った捉えをしている生徒がいると考えられます。

また、「∠aと∠dを解答しているもの(緑色)」の中には、錯角の位置にある角を捉えているが、平行であることを示すために着目すべき錯角の位置にある角を捉えることができていない生徒がいると考えられます。

他にも、上記以外の解答の中には、錯角の位置にある2つの角を正しく捉えることができていない生徒がいると考えられます。

授業改善のポイント

① 数学的な表現力を育成する言語活動の充実を図る 【何を・どのように書くか】

数学的活動を通して実感を伴った理解にするとともに、「わかった」「できた」という実感を、数学的な表現に整理する場面設定が大切です。見いだした事柄を説明する「事柄・事実」、解決の方法を説明する「方法・手順」、成り立つ理由を説明する「理由」の3つの記述について、どのような表現を目指すのかを本時のねらいと対応させ、生徒とともに数学的な表現に洗練していく過程を重視する指導が考えられます。

② 数学的に表現し伝え合う活動の充実を図る 【どのように磨き上げるか】

生徒が実感している数学のよさを原動力とし、自分の考えを他者への確に表現する必要性を感じる場面を設定したり、言葉、数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を関連付け、対話を通してそれらをより簡潔・明瞭・的確な表現へと高め合う活動を取り入れたりすることが大切です。日常的に生徒がどのように考えたのかを説明し記述する時間を確保し、数学的に考える資質・能力を育成することが求められます。

※ 「説明できた」「記述できた」へ引き上げる具体例として、右の二次元コードから資料「令和2年度調査問題活用のための参考資料 中学校数学 設問 7」を参考にしてください。



4 各教科の結果の概要 — 中学校英語

○ 今年度の中学校英語 IRT バンドにおける IRT スコアの区分

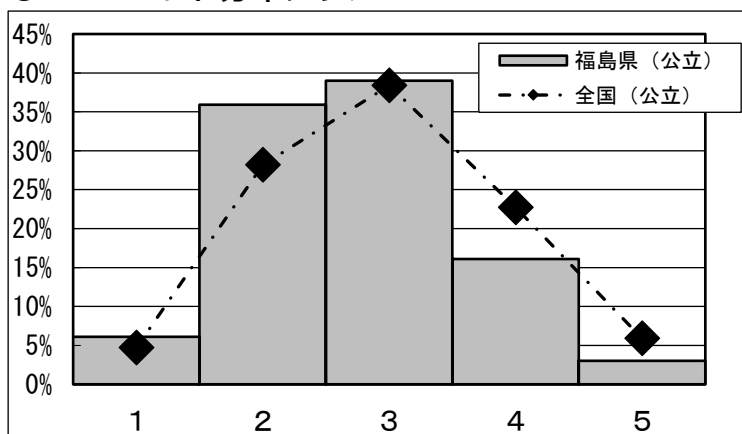
中学校英語 IRT バンド	1	2	3	4	5
3技能 スコア 換算	~ 329	330 ~ 443	444 ~ 558	559 ~ 673	674 ~

福島県の IRT スコア 472

福島県の IRT バンド 3

※ IRT スコアは、500を基準とした得点。(実際の各生徒のスコア状況により変動することもある)

○ IRT バンド分布グラフ

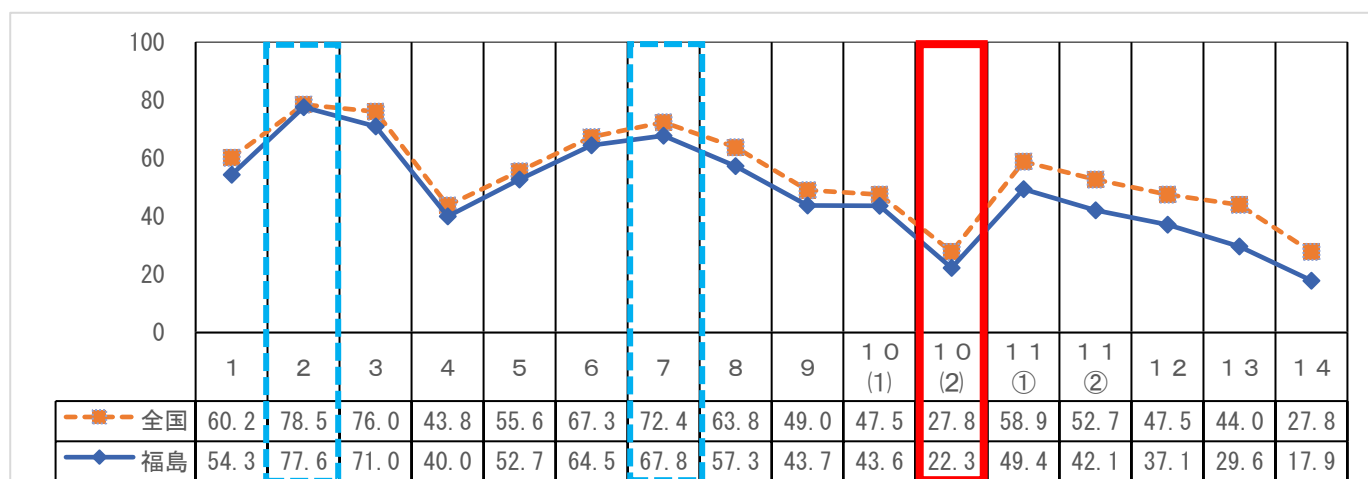


○ バンド3に属する生徒が最も多い。

● バンド4・5に属する生徒の割合は全国を下回っており、バンド1・2に属する生徒の割合が全国平均を上回っている。

○ 設問ごとの平均正答率

成果が見られた設問(点線枠・○)と課題が見られた設問(実線枠・●)



○設問2 日常的话题について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかをみる

○設問7 日常的话题について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかをみる

●設問10(2) 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる

○教科についての質問調査項目の一部

質問番号	質問内容	回答割合の全国平均との比較		
生徒 (79)	聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていましたか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合		
		県:85.0%	全国:82.8%	全国比:+2.2
学校 (59)	自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合		
		県:93.1%	全国:91.6%	全国比:+1.5

○質問調査の結果から、領域間の統合を図った言語活動や自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動が実施されていることが読み取れ、学びの変革が進んでいることがわかります。設問毎の平均正答率においても、「聞く」「読む」の領域においては、全国平均との差が他の設問に比べ小さくなっています。

●IRT バンドの分布において、バンド2に多くの生徒が属しており、バンド4・5の生徒の割合が全国平均を下回っている状況です。バンド1・2の生徒をバンド3・4へ引き上げていくことが重要です。単元や授業において、評価場面を適宜設け、生徒の達成状況を見取りながら継続的に指導を行うことが求められます。

●設問10「(1)社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉える」は平均正答率が43.6%であるのに対し、「(2)社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く」は平均正答率が22.3%と大きく下回ります。文章の内容は読み取ることができたが、何を書いたらよいのか思い浮かばなかったのか、あるいは、文章の内容は読み取ることができ、書く内容も思い浮かんだが、英語の表現が分からなかったのかなど、生徒の課題がどこにあるのかを見取って指導を行うことが重要です。

「学びの変革」に向けて ～教科の特質に応じた見方・考え方を働かせて～

〔ここで取り上げる設問〕 10(2)

出題の趣旨 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を、書くことができるかをみる

- 10 中学生のまいこが英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。(1)と(2)の問いに答えなさい。
(2) まいこの質問に対する「あなたの答え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で書きなさい。【まいこが書いた文章】にある英語を使って書いてもかまいません。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.
Do you think my opinion is good?

<解答欄>

Do you think my opinion is good?

あなたの考え

なぜそう考えるのか

※ 実際の画面の配置とは異なっています。

【解答類型】解答類型と福島県の反応率 [福島県の反応率(%) (全国比)]

条件① 書き手の意見に対する自分の考えを書いている。

条件② 条件①の理由を書いている。

1	◎	条件①、②を満たしているもの	17.3% (-5.1)
2	○	文法事項などに誤りがあるが、条件①、②を満たしているもの	5.1% (-0.3)
3		条件①を満たし、条件②を満たさないもの	31.7% (-3.8)
4		条件①を満たしているが、条件②に関わる記述がないもの	9.9% (+1.6)
5		条件①を満たしていないが、条件②を満たしているもの	2.2% (+0.2)
6		条件①に関わる記述がないが、条件②を満たしているもの	0.3% (+0.1)
7		条件①、②を満たさない	12.3% (+2.6)
99		その他	2.8% (+0.7)
0		無解答	18.4% (+3.8)

解答類型3の誤答例
(内容の矛盾)

I agree with you. I think paper dictionaries is more useful than internet.

解答類型3の解答例
(文構造の誤り)

I think your opinion is good.
I think students will find is very good.

誤答分析

全国のIRTバンド別類型割合では、バンド1に属する生徒の4割以上、バンド2に属する生徒の約3割が無回答です。書き手の意見に対して、賛成か反対かなどの立場を明確にさせ、それを「自分の考え」として書くことから段階的に指導していくことが求められます。

全国のIRTバンド別類型割合では、バンド3に属する生徒の4割以上、バンド4に属する生徒の約4割が解答類型3に分類されます。福島県では解答類型3に分類される割合が31.7%と最も多く、自分の考えの理由を書くことに課題があることが考えられます。

授業改善のポイント

① 単元を通して簡単な「書くこと」の活動を繰り返す

聞いたり読んだりした内容についてメモなどで整理しながら、自分の考えや気持ちを主体的に伝え合う言語活動を位置づけ、その発話内容を改めて整理しながら書くといった学習活動を単元を通して継続することが重要です。同じ題材や類似した話題についてのやり取りを通して、「書く内容」についての理解を深めながら、少しずつ簡単な「書くこと」の活動を重ねることで、自分の意見とその理由を書く力を高めることができます。

② 具体的な単元計画を作成し、生徒と共有する

題材や学習目標、評価の方法、授業時数(期間)などを生徒と共有しておくことで、生徒は見通しをもって学習に取り組むことができます。また、評価基準と自分の学習状況を比べて学習の方法を見直したり、評価の実施時期に向けて計画的に学習に取り組んだりすることもできます。

(参考)パフォーマンステスト事例集(右のQRコード)に評価基準(ループリック)を掲載しています。



5 授業改善のための情報・ツール集

○ 全国学力・学習状況調査についての情報

教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」 (文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター)	
データで見る日本の教育「全国学力・学習状況調査」 ※定期的な更新有り (文部科学省国立教育政策研究所)	
各教科の指導資料・事例集(各校種・各教科) (文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター)	
全国学力・学習状況調査の分析にかかる研修資料動画 (文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター)	
分析ツール(Microsoft Power BI Desktop) 【9月提供予定】 (文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター)	

○ 福島県の情報

ふくしまの「授業スタンダード」 (福島県教育庁義務教育課)	
「学びの变革」授業デザイン (福島県教育庁義務教育課)	
全国学力・学習状況調査関係、ふくしま学力調査関係 (福島県教育庁義務教育課)	
学びの变革を目指して (福島県教育庁義務教育課)	
学校全体で語彙を豊かにする 2026 (福島県教育庁義務教育課)	
教育通信 (福島県教育庁義務教育課)	